


グローバルに羽ばたく第一歩！ 農学部AIMSプログラム

ASEAN発、環境に配慮した食料供給・
技術革新・地域づくりを担う次世代人材育成



東京農工大学
派遣募集説明会
2019年10月

AIMSプログラムとは

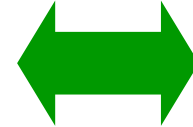
AIMS(エイムス) Program =
Asian **I**nternational **M**obility for **S**tudent Program
...ASEAN地域内＋日本の学生交流

農工大AIMSプログラム「**ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材育成**」
(文部科学省「**大学の世界展開力強化事業**
～海外との戦略的高等教育連携支援～」採択事業)



東京農工大学
茨城大学
首都大学東京


交換留学



協働教育

タイ
インドネシア
マレーシア
フィリピン
ベトナム
などの協定大学

AIMSプログラム：3つのチャンス

学科	年次			
	1年生	2年生	3年生	4年生
生生・応生・ 環資・地シス				
獣医	3年生	4年生	5年生	
	夏期 短期派遣		セメスター 派遣	
	BUDDYクラブ(受入)			

セメスター派遣の内容

1. 派遣実績国

ボゴール農科大学(インドネシア)

ガジャ・マダ大学(インドネシア)

カセサート大学(タイ)

フィリピン大学ロスバニョス校(フィリピン)

プトラ大学(マレーシア)

マーラ工科大学(マレーシア)

※上記大学に各1～2名程度

2. 派遣期間

2019年7月下旬～2020年1月上旬(派遣先大学により異なる)

※ガイダンス及び各種事前研修を2019年4～7月に予定

3. 派遣内容

単位取得を目的とした派遣先大学での科目受講、
現地の文化体験、現地学生との交流等

※派遣先大学での単位取得(最低12単位を履修)を目的とし、
本学の学生を1セメスターの期間派遣する

※各学部・学科の必修科目・選択必修科目を考慮して、
所属学科のAIMS委員、教育委員、AIMSコーディネータと
密に調整しながら、受講科目について学生本人が確定

4. 派遣費用

渡航先大学の学費は不要(本学の授業料は納める)

渡航費は一部大学から補助される可能性がある

一定基準を満たせばJASSOより奨学金の受給が可能

以下については自己負担

渡航費(※)、パスポート申請費用、VISA取得にかかる費用、
海外旅行保険加入費用、現地宿泊費、国内・現地での移動経費、
飲食費、お小遣い、土産代等

* 奨学金を越える部分は自己負担での支出となる

AIMSプログラム：農学部協定大学



派遣先大学について

それぞれの特色を生かしてその国・その大学ならではの学びができます

国名	大学	学生数	所在地	言語	主な宗教	特色
インドネシア 	ボゴール農科大学	約25,000人	地方都市 郊外	インドネシア語 英語	イスラム教	農学及び生命科学の分野では、インドネシア高等教育において最先端。特に食品化学分野が強い。
	ガジャマダ大学	約56,000人	地方都市 市内	インドネシア語 英語	イスラム教	インドネシアで最も古い国立大学。留学生も含め、さまざまなバックグラウンドを持つ学生と出会える。
タイ 	カセサート大学	約58,000人	都市部 中心	タイ語 英語	仏教	タイで最初の農業大学で最も規模の大きい大学の一つ。農学部にインターナショナルコースを設置している。
フィリピン 	フィリピン大学 ロスバニョス校	フィリピン大学全体で 約53,000人	地方都市 郊外	英語 タガログ語	キリスト教	フィリピン大学のブランチの1つ。農業を専門としたキャンパスで毎年トップ10に入る名門校。
マレーシア 	プトラ大学	約26,000人	都市部 郊外	マレー語 英語	イスラム教	農業大学として創設され現在は高等教育機関として中心的な役割を担う。郊外に広大な敷地を有し、その広さはアジア有数。
	マラー工科大学	約170,000人	都市部 郊外	マレー語 英語	イスラム教	マレーシアで最も古い理工系大学。国内における工学系人材の3分の2を輩出する国立の研究重点大学。

このあとどうなる?? (この先10ステップ)

1. 募集要項を入手し、内容を確認する
2. これまでセメスター派遣に行った先輩などに聞いてみる
3. GIOに相談する／過去の資料などを見に来る
4. 申請書を作成し、提出する
5. 書類審査、面接審査を受ける
6. 派遣が決まったら、派遣先大学のアプリケーションを作成する
7. 渡航前研修を受ける
8. 派遣先大学での履修、住居、航空券手続きをする
9. ビザの申請をし、受け取る
10. 渡航準備をする
いざ出発！



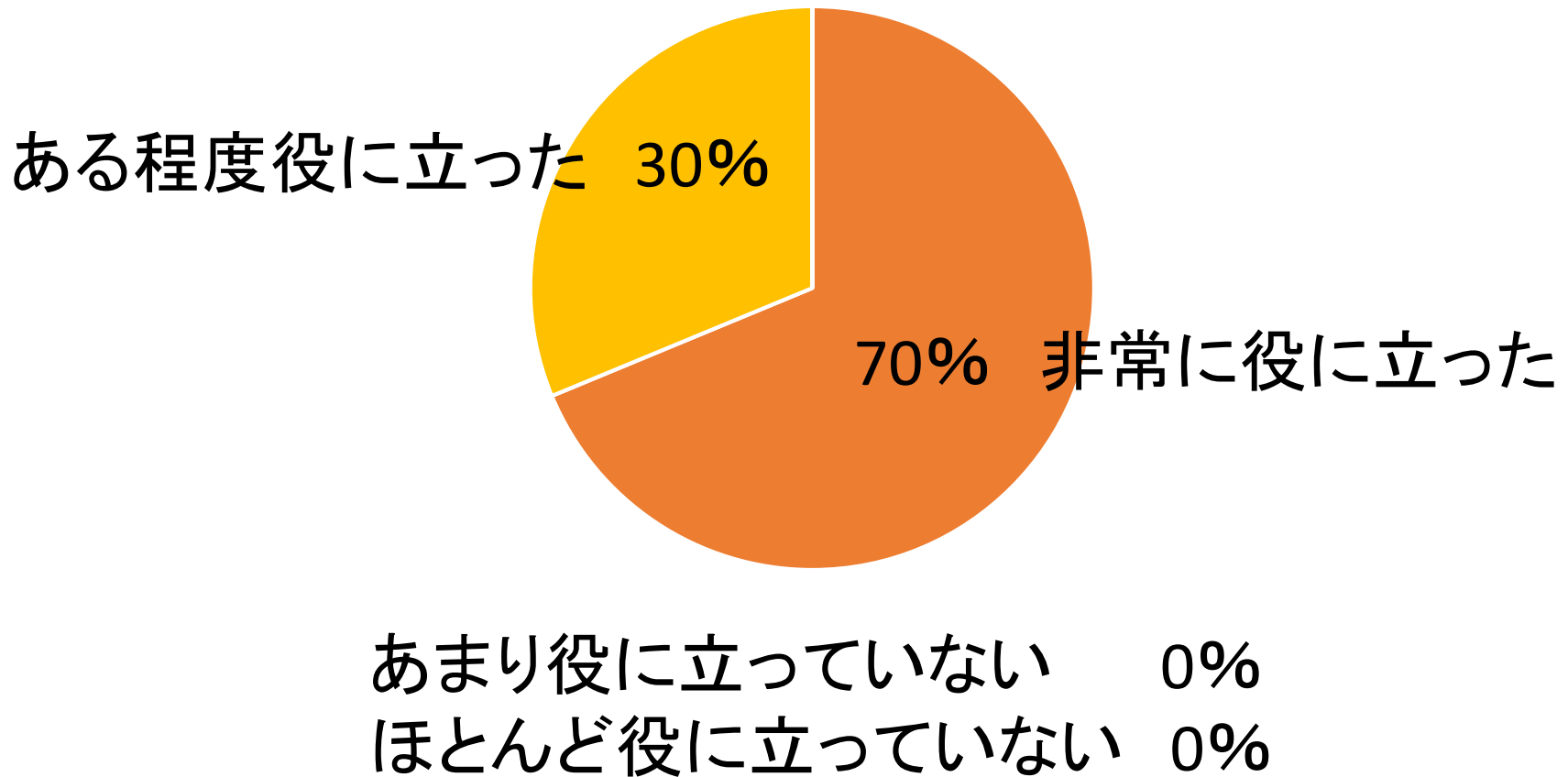
そのあとどうなる?? (更に10ステップ)

1. 現地到着後必要な手続きを行う(住居、ビザ、学生証その他)
2. オリエンテーション等に参加し、履修を確定する
3. 授業履修、その他様々な活動に参加する
4. 毎月の奨学金の手続き、報告書をメールで送る
5. 中間試験、期末試験を受ける
6. 帰国準備を行う(住居、ビザ、航空券など)
7. 帰国！おかえりなさい
8. 学内手続きを行う(単位認定、報告書、アンケート)
9. そこで得た経験・学びを次につなげる(体験談、次の留学etc.)
10. 今いる自分よりも成長している?!



セメスター派遣 修了者アンケートより

セメスター派遣は自分の人生にとって役に立ちましたか？



先輩からのメッセージ①

3年生後期に半年間というタイミングは...

- AIMSプログラムの長期派遣のある3年後期は農工大での授業は少なく、研究室活動もそれほど忙しくないで、ぜひ参加すべきだと思う。専門分野を英語で学んで理解を深められる、英語・現地語が上達する、インターナショナルな友人ができる、日本とは全く異なる文化・慣習の国で貴重な経験がたくさんできる、などメリットは多い。奨学金も充実しているので、金銭面で心配することもない。
- 3年後期は授業が比較的少なく、研究室も本格的には始まっていない場合が多いと思うので、実は大学4年間で、まとまった期間日本から出てみる最大のチャンスです！人生の中の半年として得られるものを比べるときっと桁違いなので、留学なしに日本で過ごすのはもったいないと思います！
- ASEANの国々の学生はエネルギッシュな人が多く、非常に刺激を受けました。留学は今後の勉学のモチベーションの維持に大いに貢献すると私は考えます。また異国の地で長期間生活するのは不安だと思いますが、出会うものすべてが新しくワクワクして楽しめると思います。長い時間を取れる学生だからこそ、新しいことに積極的にチャレンジしてみたいか？留学の成果は与えられるものではなく、自分で掴むものです。皆さんの留学が実りあるものになるよう、心から応援しています！
- 留学は楽しい事ばかりではなく、大変な事ももちろんありますが、自分の軸をもっていれば大丈夫です。周りの人もきっと助けてくれます。私はもう社会人なのでそう簡単には留学できません。皆さんは何でもできるし何にでもなれます。学生時代に留学できる経験は何度もない貴重な機会だと思うので、迷っているのなら挑戦してみましよう。

先輩からのメッセージ②

帰国後が心配...

- ➔ AIMSでの留学経験がどのように役立つかは人それぞれだと思いますが、人生のうち半年ぐらい東南アジアで暮らすのも悪くないです。東南アジアに暮らした人間にしか得られないたくましさやしぶとさは教科書では学べません。留学中や留学直後は気づかなかったのですが、**留学から数年経ってふと、あの時東南アジアに留学していたからこそ、他の人にはない自分だけの視点があることに気づかされることもあります。**語学や生活面で不安を抱えて一歩踏み出さないのは勿体ないです。驚かされることも多々ありますが、大抵のことは1ヶ月もすれば慣れます。
- ➔ 留学を迷っている学生には、迷わず今すぐAIMSへ申し込んでほしい。行けば必ず自身の人生へ非常に良い影響を受けるであろう。また、**就活や大学院入試にも想像以上に大きなプラスになる。**自分は外部の大学院を複数受けたが、入試の際に留学の経験と学んだ知識が筆記・面接共にかなり有利に働いた。某大学は留学経験がなければ筆記・面接共に通過できなかったであろう。留学にデメリットがないわけではない。地域生態システムであればプログラムが完成はかなり厳しいものとなる。現地で多少の苦労やトラブルもある。食事(特に香辛料やパクチーなど)が合わない人もおり、気候や衛生観、時間感覚を含めた文化の違いを受け入れにくい人もいだろう。しかし、それを上回る大きなメリットが留学にはある。海外の風土や文化は本やネットだけでは決して理解できない。いくら座学で勉強しても、現地に1度行ってみないことには「井の中の蛙大海を知らず」なのだ。なによりも、通常留学の壁となる「時間」「単位」「費用」の全てをクリアできる機会は、この先ないだろう。この貴重かつ有益なチャンスに、ぜひ挑戦してほしい。

先輩からのメッセージ③

お金がかかる...

- 留年もせず、奨学金を頂きながら5カ月も留学できる環境はそれほどないと思うので、このプログラムをしっかり活用してほしいと思います。
- とりあえず、何かしておけばいいと思います。半年くらいなら授業受けなくても留年はないでしょう。あまり書くべきではないと思いますが、色々お金が大学で削られているなか、海外関係はかなりお金が出ているように感じるので、しておかないと損かなとも思いました。

英語力や海外生活に対して自信がない...


- 怖くても、行って1か月も生活すれば楽しくなってくるので、躊躇せず留学という機会を無駄にしないようにしてほしい。
- 行くまでは不安等で悩んでいても、行ってしまえば絶対に楽しいと思います。チャンスがあるなら、ぜひ留学を経験してほしいです。
- 日本人の学生にとって、留学すること、しかも1セメスターのような長期的な留学をすること、留学先で授業を受けて単位を取得してくること、というのはハードルが高いと思います。留学先での暮らしや食べ物が気になる学生もいるとは思いますが、多くは自身の英語力に対する不安から、留学をしない学生が多いと思います。一度悩んでしまうと、悪い方向にどんどん悩んでしまっ結果的にあきらめることが多いと思います。私も英語で授業を受けて単位をとる、ということは不安でしたが、あまり深く考えるとどんどん不安になっていくと思い、英語力などはさほど気にせず、なんとかなる、という気持ちでとりあえず応募しました。もし英語力が自信なくて迷っている学生がいるなら、その迷っている時間ももったいないです。英語力がないから、留学するのであって、最初から英語ができていれば語学留学など必要ありません。

先輩からのメッセージ④

とはいえやっぱり不安...

- 留学を決めることで諦めなければならないことや周りに迷惑をかけることなど色々あると思います。私もそれらの大きさに、止めておこうかな...とっていました。でもギリギリになって、やっぱり後悔したくない！と思って応募したのを覚えています。留学が決まった時、捨てるものが大きい分、留学先でもっともっと大きなものを得てこようと思いました。それをモチベーションの一つにして、有意義な半年を送ることができたと思っています。私生活から離れる、という意味でも、留学はたくさんの方に気が付けてくれます。少しでも気になる気持ち、迷う気持ちがあるのなら、まず応募してみることをお勧めします。
- 留学は自分の世界を広げるチャンスです。大学ではこんな貴重なチャンスをもらえるのに、それを様々な理由で蔑ろにする学生が多く、勿体無いと感じることが何度もありました。せっかくのチャンスを棒に振るより、帰国後は何とかなると思って頑張ってみてはどうでしょうか。
- なかなかできる経験ではないので、少しでも行きたいと思えば行く方がいいとおもう。
- 留学しなくて後悔することはあっても、留学して後悔することはないです。英語に少しでも興味があるなら、ぜひ頑張してほしいと思います。
- 留学をして損することは絶対にはないです。

AIMSセメスター派遣の流れ

- 2019年11月： 説明会 ※web掲示板にて通知
- 12月： 募集開始
- 2020年 1月： 応募締切、書類審査、面接審査
- 2月： 選考結果通知
- 3～5月： 派遣先大学申請手続き
- 6～7月： 派遣前研修、渡航準備
- 7月末／8月： 出発！ 
- 12月／1月： 帰国
- 2021年2～3月： 帰国後手続き(報告・単位)

Coordinatorがサポート



AIMSに関する質問・相談は・・・

プログラムコーディネータ(留学計画全般・派遣先大学等に関する相談)

堀切 友紀子(ほりきりゆきこ)

Global Information Office(農学部本館1階)

042-367-5920 / horikiri@go.tuat.ac.jp

※できるだけ事前にアポをとってから来室してください

AIMS委員(学科での履修計画等に関する相談)

生物生産学科:	大津直子	nohtsu@cc.tuat.ac.jp
応用生物科学科:	仲井 まどか	madoka@cc.tuat.ac.jp
環境資源科学科:	多羅尾 光徳	tarao@cc.tuat.ac.jp
地域生態システム学科:	斎藤広隆	hiros@cc.tuat.ac.jp
獣医学科:	佐々悠木子	sassa_y@cc.tuat.ac.jp

担当事務(応募用紙の記入・提出、TOEFL等に関する問い合わせ)

農学部教務係 042-367-5659 akyomu12@cc.tuat.ac.jp